

自 平成21年4月 1日
至 平成22年3月31日

平成21年度事業報告書

〒104-0045 東京都中央区築地3-7-5

財団法人 **全国青少年教化協議会**

平成21年度事業報告

自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日

1. 仏教子ども会活動の推進

(1) 花まつり行事の推進、助成

加盟教団及び府県地区青少年教化協議会（略称・青少協）に対して、花まつり行事の推進を図った。

(2) 成道会全国子ども大会の開催推進

平成21年12月8日前後の日曜日を中心に全国約90会場で開催した。

※参加者＝約10,000名（うち児童約8,000名）

※行事＝記念式典（法要・法話など）、お楽しみ会（童話、ゲーム、映画、パネルシアター、紙芝居、人形劇）など多彩な行事が各地で開催された。

※教材助成＝成道会用リーフレット（B6判、多色刷り）、成道会ポスター（A2判、多色刷り）、シャープペンシル及び消しゴム（読売新聞東京本社、日本テレビ放送網からの助成品）を送付、青少協を通じて各開催会場の責任者から参加児童に手渡された。

※後援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網

2. 青少年教化研修会等の開催

(1) 「協働コーディネーター養成講座—お寺と地域をつなぐコーディネート力を磨く」の開催

全国におよそ7万8千あるといわれるお寺。いわゆる公益法人3法の施行に伴い、法律の上でも、また社会においても、お寺のあり方とその真価が厳しく問われる時代になってきた。そこで、お寺が地域の人びとをはじめ、お寺を取り巻くさまざまな人と手を携え、公共的な課題の解決に向け活動する「協働」のあり方に焦点を当てるため、参加者体験型の講座として「協働コーディネーター養成講座」を開催した。

※日時＝平成21年7月7日・8日

※会場＝曹洞宗壇信徒会館（東京グランドホテル）

※講師＝世古一穂（NPO研修・情報センター代表）、神仁（全青協主幹）

※内容＝お寺の公益性（講義）・協働コーディネーターとは（講義）・ウィッシュポエム（ワークショップ）他

(2) 電話相談窓口の開設および青年僧相談員の育成

不登校やひきこもり、自死念慮など青少年やその家族が抱える悩みに対応すべく、全青協内に電話相談窓口を開設し、当事者や家族に対してカウンセリングを行った。また、併せて電話相談窓口の開設を希望する青年僧をOJT形式の研修方法により育成した。

(3) てらネットEN自助グループ「シンシア」の運営

主にひきこもりやニートの当事者同士が集まり支えあう自助グループを毎月1回開催した。

※日 時＝平成21年4月22日／5月20日／6月24日／7月22日／8月19日／
10月21日／11月25日／12月2日／平成22年1月20日／2月24日
／3月10日（毎月原則第4水曜日に開催）の14時～17時

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝フリートーク・坐禅・念仏・ヨーガ・写経等、参加者が主体的に内容を決めていく。

(4) 「ご縁つながり隊」の運営

ひきこもりやニートの当事者が社会参加するための足がかりとして、就労支援活動を隔月に行った。

※日 時＝平成21年4月20日／6月19日／8月20日／10月22日／12月21日
／平成22年2月25日の14時～17時

※会 場＝全青協事務局

※内 容＝機関誌『ぴっぱら』の発送作業など軽度の作業をしながら、当事者が他の当事者や本財団職員と会話を交わすことで、コミュニケーション能力の向上を目指す。

(5) 「美音の癒し異空間」の開催

ひきこもりやニートの当事者を支援する一環として、当事者の居場所から社会に踏み出そうとしている若者たちの支援を目的に開催した。

※日 時＝平成21年12月2日（水）

※会 場＝東京都港区・光明寺

※内 容＝ヒーリング音楽の鑑賞、茶話会など。

(6) こころの相談室の運営

全青協内に不登校や非行、ひきこもり、精神疾患などの悩みを抱える当事者やその家族を対象とした来所相談室を開設。通常の電話相談では対応できない場合などに随時面接を行った。

3. 表彰事業の実施

(1) 「第33回正力松太郎賞」の表彰

※表彰式＝平成21年5月13日（水）

※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

※受賞者〔本賞〕＝畑崎龍定師〔西山浄土宗常福寺住職／和歌山県日高郡〕
ゆめ観音実行委員会〔代表・横山敏明師／ゆめ観音実行委員長／曹洞宗大
船観音寺住職／神奈川県鎌倉市〕
〔青年奨励賞〕＝廣部光信師〔天台宗教林坊住職／滋賀県蒲生郡〕

(2) 「第34回正力松太郎賞」の公募と受賞者の決定

平成21年9月公募開始、同年12月15日締め切り。

※選考会日時＝平成22年3月8日（月）

※選考会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

本賞2件、青年奨励賞1件が下記のように決定。

※受賞者〔本賞〕＝長谷川実彰師〔真言宗智山派大智院住職／愛知県知多市〕

岩国演劇研究会『劇団のんた』〔代表・藤谷光信師（浄土真宗本願寺派教
蓮寺前住職）／山口県岩国市〕

〔青年奨励賞〕＝子どもの寺 童楽寺〔代表・安武隆信師（救世観音宗童楽寺住職）／
和歌山県伊都郡〕

※後援＝読売新聞東京本社、日本テレビ放送網、よみうりランド、報知新聞社

※表彰式＝平成22年5月17日（月）

※会場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）

(3) 青少年に関する活動を行っている各種仏教団体等主催表彰事業への協力

①曹洞宗主催「第43回青少年書道展」を後援、全青協賞を授与。

②大正大学書道研究部主催「第58回全国書道展」を後援、全青協賞を授与。

③炎天寺一茶まつり委員会主催「平成21年度全国小中学生俳句大会」を後援、全青協賞
を授与。

4. 青少年教化活動の調査・情報収集

(1) 青少年教化活動者の活動内容の調査、情報収集

日曜学校など青少年教化活動を行っている寺院の活動状況を、聞き取り調査した。

(2) 仏教系大学サークルの活動情報収集、連携

各仏教系大学の児童研究会などを中心に、全青協の案内、研修会の案内などを送付した。
また、サークル役員と日曜学校・子ども会の新たな展開方法について検討した。

(3) インターネットによる情報収集

インターネット、電子メールを利用して青少年問題に関する情報収集を行った。

(4) 不登校・ひきこもり関連団体に関する情報収集

てらネットENのネットワーク拡充に向け、不登校・ひきこもりの問題に取り組む寺院および民間団体に関する情報収集を、書籍、インターネット、電話等で行った。

5. 青少年教化活動の情報公開と広報

(1) ホームページによる情報の提供

全青協の活動を広く一般に紹介するため、定期的にホームページの内容を更新して、各種の情報を提供した。

(2) 青少年教化活動者の活動内容の紹介

前項5.の(1)「青少年教化活動者の活動内容の調査」に伴って取材した内容を、随時『ぴっばら』誌に掲載し紹介した。また、ホームページ上でデータベースとして一般に公開した。

(3) てらネットEN小冊子およびポスターの配布

てらネットENの広報および不登校・ひきこもりに関する情報提供を目的とした小冊子およびポスターを加盟教団・青少協・不登校ひきこもり支援団体等の要請に応じて配布した。

(4) てらネットEN自助グループ「シンシア」ブログの運営

ひきこもり当事者の自助グループの活動内容やその他情報をスピーカーにかつ広く公開するために、シンシア専用のブログを作成し随時更新した。

6. 組織の充実・拡充

理事会及び評議員会、青少協代表者会議の席上、会員拡充への協力を依頼した。また、各宗派の教化研修会等において全青協の資料を配布し入会案内を行った。17年度に全青協の活動財源を支えていただく特別賛助会員制度を新設し、21年度も引き続き広く協力を募った。

会員数は平成22年3月末日現在、1129名。内訳は「会員」550名、「活動会員」319名、「賛助会員」229名、「特別賛助会員」31名。

7. 府県地区青少年教化協議会及び活動寺院・団体との活動提携・連携

(1) 「府県地区青少年教化協議会代表者会議」の開催

本会と青少協との情報交換、教化活動の推進を図るため、代表者会議を開催した。

- ※日 時＝平成22年2月15日（月）
- ※会 場＝東京都港区・曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）
- ※テーマ＝「各青少協の活動報告、今後の各青少協の活動の活発化と継承について」
- ※参加青少協＝静岡県東部、大阪府、香川県、滋賀県、島根県（5団体）

(2) 第4回「ほとけさまの絵コンクール」の後援および協賛

大阪青少年教化協議会が主催する「ほとけさまの絵コンクール」を後援し、併せて協賛を行った。

- ※ 公募期間＝平成21年12月～22年2月
- ※ 応募総数＝約200点
- ※ 選考委員＝久保田聖淳氏ほか
- ※ 入 賞＝最優秀賞ほか13点
- ※ 主 催＝大阪府仏教会／大阪青少年教化協議会
- ※ 後 援＝全国青少年教化協議会ほか

(3) 国際子ども支援プログラムの運営（びっばら国際児童基金）

社団法人全日本仏教婦人連盟と提携し、ワラナシ（ベナレス）等でストリートチルドレンやスラムで暮らす子どもたちを対象に、チャイルドサポーター（里親）制度の運営を行った。また、サルナートにおける被虐待児童のシェルターの運営を開始。北部ラダックにおいても、教育を受けることのできない遊牧民の子どもたち等を対象に、教育・福祉・医療の面で支援を行った。

(4) 寺子屋NPOプログラムの推進

平成13年度より進めている寺子屋NPOプログラムをベースに、寺院を場として市民との協働による青少年相談電話「てらフォン」の開設事業、青少年の居場所作り等を推進した。また、チャイルドライン支援センターなど民間のNPOとのネットワーク構築を進めた。

(5) 「平和を学び・考え・願う青年仏教者の集い」（平仏集）の運営

近年の自衛隊海外派遣や憲法改定の動きの中で、恒久平和を実現するために青年仏教者はどのような役割を果たすべきなのかを考え適宜行動した。平成21年度はパレスティナとイスラエルの問題をテーマに「涅槃でGOGO」を企画し、映画「沈黙を破る」の上映会と、監督を招いてのトークセッションを開催した。NPO法人アユス仏教国際協力ネットワークとの協働事業。

- ※日 時＝平成22年2月11日（祝）
- ※会 場＝経王寺（東京都新宿区）

(6) 「エンゲイジド・ブディズム研究会」の運営

日本におけるエンゲイジド・ブディズム（社会参加型仏教）のあり方を考えるため、エンゲイジド・ブディズム研究会を逐次開催した。平成21年度は、特に INEB（International Network of

Engaged Buddhists) の東アジア大会を、平成22年4月初頭に開催すべく準備作業を進めた。韓国・台湾・日本で社会活動に参加する仏教者の現状について互いに報告し合い、三国の連携のもとに今後の具体的なエンゲイジド・ブディズム方向性を探るための企画である。孝道教団、浄土宗平和協会、アユス仏教国際協力ネットワーク等との協働事業。

※大会開催日時＝平成22年4月4日～4月7日

※会場＝東京都中央区・本願寺築地別院他

8. 加盟教団等との活動提携・連携

加盟教団等からの要請に応じて講師を派遣し、講演・ワークショップを行った。また、必要に応じて資料の提供や情報交換を行い、加盟教団等の主催事業に参加・協力した。

(1) 講師派遣

平成21年4月14日(木)	全日本仏教婦人連盟仏教文化講座(東京都)
平成21年6月27日(土)	本願寺築地別院仏教文化講座(東京都)
平成21年7月22日(水)・23日(木)	日本仏教保育協会夏期保育講習会(東京都)
平成22年3月14日(日)	三十三間堂仏教文化講座(京都府)

(2) 加盟教団・関係諸団体主催式典等への参加および協力

平成21年6月18日(木)	金峯山修験本宗五條順教猊下本葬(奈良県)
平成21年8月4日(火)	比叡山世界宗教者サミット(滋賀県)
平成21年8月6日(木)	曹洞宗主催第43回青少年書道展表彰式(東京都)
平成21年8月26日(水)	仏教スカウト・ベンチャーフォーラム(滋賀県)
平成21年9月7日(月)	全日本仏教婦人連盟大会(東京都)
平成21年10月27日(火)	曹洞宗総合研究センター学術大会(東京都)
平成21年11月5日(木)	日蓮宗教化学研究発表大会(東京都)
平成21年11月7日(土)	KHJ親の会全国代表者研修会議(宮城県)
平成22年1月14日(木)	日本仏教保育協会新年会(東京都)
平成22年2月12日(金)	全日本仏教婦人連盟修正会(東京都)
平成22年3月12日(金)	日本宗教連盟宗教と税制シンポジウム(東京都)
平成22年3月18日(木)	仏教伝道協会文化賞授賞式(東京都)
平成22年3月26日(金)	金峯山修験本宗五條覚堯猊下晋山祝賀会(大阪府)
平成22年3月30日(火)	浄土宗平和賞選考会(東京都)

(3) よみうりランド仏舎利法要開催への協力

協力企業のよみうりランドが主催して毎年開催されている「仏舎利法要」に対して、職員2名を出仕させ、同聖地公園にて法要を執り行った。

※日 時=平成21年5月21日(木)

※会 場=よみうりランド聖地公園(東京都稲城市)

9. 「第42回現代名僧墨蹟展」の開催

全国6会場で開催。現代仏教界を代表する各宗派管長、大本山貫首、布教師をはじめ、本会の活動の趣旨に賛同していただく文化人、著名人など約200名の協力を得て、直筆の掛け軸、額、色紙、短冊などを展示、希望者に頒布し、純益を青少年教化活動の基金に充てた。併せて、会場で本会発行の機関誌『ぴっぱら』を配布するなどして本会活動の広報、会員拡充に努めた。また、墨蹟法話を行い、墨蹟の意義の理解と仏教宣布・青少年教化の普及に努めた。

※開催会場：

東京上野会場	松坂屋上野店	平成21年6月3日(水)～6月9日(火)
山口会場	山口井筒屋本店	平成21年9月3日(水)～6月7日(月)
静岡会場	松坂屋静岡店	平成21年9月23日(水)～9月29日(火)
大阪会場	近鉄百貨店上本町店	平成21年11月12日(木)～11月18日(水)
東京銀座会場	松坂屋銀座店	平成21年12月16日(水)～12月22日(火)
愛知会場	松坂屋名古屋本店	平成22年1月27日(水)～2月2日(火)

※共催団体=読売新聞中部支社、大阪青少年教化協議会、静岡県東部・中部・西部青少年教化協議会(開催会場により異なる)

※後援団体=読売新聞東京本社、読売新聞大阪本社、読売新聞西部本社、報知新聞社、報知新聞大阪本社、日本テレビ放送網、読売テレビ放送、山口放送、中京テレビ放送、静岡第一テレビ(開催会場により異なる)

※推薦団体=全日本仏教会、東京都仏教連合会

10. 機関誌『ぴっぱら』の発行

(1) 『ぴっぱら』発行状況

月別発行部数

月	部数	月	部数	月	部数	月	部数
4	6,000	5-6	6,100	7-8	9,200	9-10	8,000
11-12	6,100	1-2	6,900	3-4	6,700		

年間発行部数 49,000部
平均発行部数 7,000部

(2) 『ぴっばら』「特集」テーマ一覧

月	テ ー マ
4	「チャレンジしたい！」を形にしよう ―障害者就労支援の現在
5-6	他人事だと思っていないか ―エイズ教育の現在
7-8	気付こう、小さなサイン ―急増する「子どもの虐待」
9-10	ゆるやかな助け合いの中で ―コレクティブハウスという暮らしの形
11-12	お寺の公益性を考えるシンポジウム 2009 ―社会はお寺に何を求めているのか
1-2	「赤い糸」のゆくえは……？ ―若者のデリケートな結婚事情
3-4	優しかったあなたが、なぜ？ ―身近で起こる「DV」の実状

1 1 . 刊 行 物 ・ 教 材 発 行

青少幼年向けの各種教材を発行。花まつりぬりえ、風船、ポスター、そして甘茶クッキーなどを頒布した。

(1) 教材の発行

①既存教材の増刷

※花まつりポスター=2,000部

※散華=1,000セット

(2) 教材等の製作

①甘茶クッキー

花まつりをにぎやかに飾る教材として、甘茶クッキーを「おかし屋ばれっと」（障がい者の自立支援を行なうNPO法人）と共同開発し頒布した。

1 2 . 臨 床 仏 教 研 究 所 の 運 営 お よ び シ ン ポ ジ ウ ム の 開 催

平成20年3月に設立した財団付属の臨床仏教研究所の定例研究会を「一般人の宗教意識」をテーマとして毎月開催し、併せて「一般人の寺院・葬儀等に関する意識調査」に基づく調査分析を行った。また、10月には、「お寺の公益性について考えるシンポジウム2009」を開催した。

(1) 臨床仏教研究所概要

①趣旨・目的：

臨床仏教研究所は、財団法人全国青少年教化協議会に付属する総合的な教育研究機関である。

21世紀を迎え、いま世界中で経済優先のグローバル化が急速に進んでいる。日本国内を見ても、経済的な側面にばかり重きを置いた価値観が社会を覆い、大人のみならず子どもたちまでもが狭量な価値観の中で人生を選択しなければならない。このような状況の中で、子どもたちは時として犯罪に走り、若者たちは夢を失って引きこもり、中高年は自死を選択していく。当研究所は、このような社会情勢を踏まえて、ホリスティックな観点に立ちながら、家庭・学校・社会教育の現状を調査研究し、人間の情操に焦点を当てた教育や福祉のあり方について仏教界ならびに一般社会に対して広く提言していく。また、現代社会において僧侶や宗教者が果たすべき役割や公益性の高い寺院の活動について探求し、教育プログラムの立案やコンサルティングを行っていく。

②事業内容：

- ・一般および寺院を対象とした調査研究
- ・研修会の開催および講師の派遣
- ・教育・研修に関するプログラム開発
- ・寺院を対象としたコンサルティング
- ・情報の提供ならびに出版物の刊行

③研究体制：

所 長／	齋藤昭俊	日本仏教教育学会名誉会長・全青協事務総長（理事兼任）
理 事／	石上善應	淑徳短期大学学長・全青協理事
	奈良康明	駒澤大学名誉教授・全青協理事
	渡邊宝陽	立正大学名誉教授・全青協理事
	島 蘭 進	東京大学教授
	山崎龍明	武蔵野女子大学教授・全青協評議員
上席研究員／	鈴木晋怜	智山伝法院教授・全青協専門委員
	神 仁	全青協主幹
研 究 員／	磯山正邦	智山伝法院嘱託研究員
	ジョナサン・ワッツ	浄土宗総合研究所常勤嘱託研究員
客員研究員／	石上和敬	武蔵野大学准教授・全青協専門委員
	小谷みどり	第一生命経済研究所主任研究員
専門委員／	長谷川正浩	弁護士・全青協評議員
	源由理子	明治大学准教授
	秦 辰也	近畿大学教授

(2) 公開シンポジウム「お寺の公益性について考えるシンポジウム2009」の開催

日 時＝平成21年10月6日（火）13：00～17：00

会 場＝曹洞宗壇信徒会館（東京グランドホテル）

主 催＝臨床仏教研究所／全国青少年教化協議会

内 容＝

1. 開会挨拶：齋藤昭俊（所長）

2. 葬儀等に関する一般人の意識調査報告：磯山正邦（研究員）
3. 基調講演：「元気なお寺の作り方」 正木晃（慶應大学講師）
4. パネルディスカッション「公益性のある寺院活動とは」
パネリスト：鈴木晋怜（上席研究員）、神仁（上席研究員）、小谷みどり（客員研究員）
コーディネーター：石上和敬（客員研究員）
コメンテーター：正木晃

(3) 臨床仏教叢書『なぜ寺院は公益性を問われるのか』（研究紀要）の発行

- 内 容＝セッション1 「法律から見た寺院の公益性」 長谷川正浩
「市民セクターとしてのお寺」 世古一穂
「宗教学の立場から」 島菌進
- セッション2 「市民との協働で地域と未来を築く」 大河内秀人
「けやの森自然塾の活動」 佐藤朝代
「自殺防止の取り組み」 袴田俊英
- 研究論文「臨床仏教の提唱」 齋藤昭俊
「祈りの公益性」 鈴木晋怜
「葬式仏教の公益性」 小谷みどり
「一人の僧侶の中の Engaged Buddhism」 磯山正邦
「タイ仏教寺院の地域社会における役割」 秦辰也
「寺院活動の公益性」 神 仁

出版社＝白馬社

部 数＝2000部

1 3 . 災 害 緊 急 ・ 復 興 支 援 事 業

国内外の自然災害に際して緊急支援事業および継続的な支援プロジェクトを行った。

(1) 復興支援事業

宮城内陸地震、ソロモン、ビルマ（ミャンマー）サイクロン、四川省大地震、バングラデシュなどの国内外の自然災害に際して会員などを対象に救援募金を呼びかけ、復興支援として関係NGOやNPOと協働しながら支援活動を行った。

(2) サモア・スマトラ島沖地震災害緊急支援事業

会員などを対象に緊急救援募金を呼びかけ、「社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）」「財団法人日本ユニセフ協会」を通じて緊急支援を行った。生活を復興させ、地域の復興にもつながる被災者の「職業訓練所」建設および運営費用等に充当した。今後も現地のNGOやNPOと協働しながら継続的に運営を支援していく。